新時代のイノベーションを創出

北東京のモノづくり

東京都板橋区、北区、練馬区、杉並区、豊島区、中野区で構成する城北地域は、都内でも屈指の産業の集積地だ。特に板橋区と周辺地域では製造業が盛んで、不況下でも革新性や独創性を武器に健闘している企業が少なくない。同区は2010年の工業統計調査（速報）の製造品出荷額で大田区を抜いて23区で１位に躍り出たほど。同区では区内企業への支援策を充実させるとともに、住工共生への取り組みも進めている。２月13日には計測検査機器などを備えた「板橋産業技術支援センター」を開所し、技術面でも城北地区の企業をバックアップする。同センターを管轄する板橋区産業経済部産業活性化推進室の有馬潤室長に話を聞いた。

インタビュー

住工共生への理解を深め 集積と連携の街づくり

『産業区』板橋区の取り組み

―板橋区は「産業区」として、光学や印刷業が盛んです。

「板橋区は明治時代に加賀藩の屋敷跡だった場所に火薬製造所がつくられ、付近に軍需関連の下請け工場が多く集まった。昔の文献では板橋を『工都』と呼んでいたほどだった。こうした背景から、現在も光学関連産業が盛んだ。歴史的背景や産業構造などで、同じ産業区である大田区とは違う部分も多い」

―区内企業に対して、区ではどのような支援を行っていますか。

「２０１１年度から新製品・新技術開発の費用を補助する制度を始めた。これまで完成品に対して販売促進の支援を行ってきたが、その前の研究開発に対しても支援する。これにより、開発―生産―販売という一連の支援の流れができた。企業側のメリットも大きいだろう」

―これまで城北地区にあった東京都立産業技術研究センターが昨年10月に江東区へ移転しました。区では代替機能を持つ板橋産業技術支援センターを近く開所します。

「都産技研は区内でも利用者が多かっただけに江東区まで行くのが大変になった。都の協力も受けて、区として施設を整備した。13台の検査機器を整備し、都産技研ＯＢの相談員３人でスタートする。４月には検査機器15台、相談員４人体制となる。計測検査や技術相談に加え、研修会や技術セミナーなどを開催し、人材育成機能も持たせる。将来は利用者どうしや産学公の連携も進めていきたい」

―区では経営デザインをテーマにした支援を進めています。

「数年前からデザインが製品から経営全体へ昇華して考えられてきたのに合わせ、06年度から『いたばし経営デザインフォーラム』を開いている。今年度は商品だけでなく、コミュニケーションや空間のデザインをテーマにした講座を開講している。付加価値の高いモノづくりをするためには、デザインの価値を高めていくことが必要。今後も継続して取り組みたい」

―航空機産業への参入セミナーも開いています。

「都が開催した東京国際航空宇宙産業展にブースを設けて区内企業６社が出展し、３日間で１０００人以上の来場者があった。航空機産業は自動車産業をしのぐほどに裾野が広く、産業全体への波及効果が大きい。技術力が高くないと参入できないが、板橋の企業なら入り込む余地はあり、一度納入できれば長年にわたって定期的に受注が見込める。技術士の活用や参入した企業の工場見学会やセミナーを開くことで、区内企業の参入を後押ししている」

―自治体では珍しい経営品質に対する取り組みも進めていますね。

「97年に『板橋経営品質賞』を立ち上げた。日本生産性本部が行う『日本経営品質賞』をモデルに行っており、区では『経営品質向上プログラム』を活用して勉強会などを開催している。受賞企業からは『経営品質を高める取り組みを通して、会社が生まれ変わった』という声も聞いている。11年度からは『いたばし働きがいのある会社賞』も創設し、社員の力をうまく引き出している企業を表彰している」

―板橋区は戦後、ベッドタウンとして宅地化が進み、高層マンションや団地も増えてきました。住工共生への取り組みは。

「板橋区は工業が盛んだということを、区民が十分に理解していない。区民に産業のまち板橋をよく知ってもらい、住工共生への理解を進めて工場の操業環境を守っていくことが必要だ。企業に対する直接的な支援だけでなく、こうした取り組みも重要だろう。昨年12月には新河岸地区の工業地域で大規模共同住宅などの建設を制限する都市計画を決定した」

―具体的にはどのようなものですか。

「地域内の企業や住民らが設置したまちづくり検討会の提案に沿ったものだ。全国的にも珍しい取り組みで、住工共生に悩む自治体からも視察がある。こうした条例が実現したのも、板橋は地域内のまとまりがよかったからではないかと考えている」

―産業観光にも力を入れています。

「各工場の実態をよく知ってもらうために始めたが、近隣の企業をよく理解してもらうことは、間接的に操業環境の保全につながる。秘密保持の問題や少人数でやっていて見学の人手がとれない問題もあるが、実施している企業にはメリットがあったと話しているところもある」

―区内企業の展示会「いたばし産業見本市」も15回目を迎えました。

「区民にも産業の街を知ってもらうため、子ども向けのモノづくり体験講座のほか、特別展示も行っている。今年度は次世代家電を展示した。アンケートでも『板橋区がここまで産業が盛んとは思わなかった』との声があった。数年前からはビジネス目的にも力を入れ、商談会も同時開催している。昨年に比べて平日の来場者やビジネス目的の来場者が増えており、出展者も手応えを感じている」

―創業支援の取り組みは。

「『板橋区立企業活性化センター』はインキュベーション施設として入居企業の助走を支援するために設置された。現在は、経営困難に直面する区内企業経営に対する相談にも力を入れており、地元の金融機関と連携した取り組みも進めている。最近ではこちらの方にも相当力を入れている」

―近隣の区との連携も積極的に進めています。

「隣接する北区とは03年から地域資源活用型産業活性化プロジェクト『ＫＩＣＣ（ｋｉｔａ ｉｔａｂａｓｈｉ ｃｌｕｓｔｅｒ ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ）プロジェクト』を進めている。両区内の企業などが連携し、健康・医療・福祉分野で共同商品の開発を進めており、製品化されたものもある。板橋区内には大病院が多く、23区で最も病床数が多い。また、板橋、北区ともに製造業が盛んであることが背景にある。また、岩手大学などと連携した『ものづくり夜間大学校』を実施して、区内企業の人材育成を進めている」

―昨年９月には地方企業との連携を目指したセミナーを開催しました。

「夜間大学校で知り合った縁などで岩手県北上市、新潟県長岡市、大阪府東大阪市の経営者らを招き、防災をテーマにしたフォーラムを開いた。ほかの地域と連携し、いざという時に助け合うことは重要で、今後も産業防災に限らず、連携して新しいものを生み出せるセミナーを開きたい」

―今後、城北地区の産業をどのように支援していきますか。

「東京都などが定めた基本計画では、都内区部についてライフイノベーションや文化関連産業の集積を図ることを掲げている。板橋、北区は製造業が盛んでライフイノベーション、ほかの区もアニメなど文化関連産業で関わりがある。板橋ではＫＩＣＣにかかわらず、ライフイノベーションに関わる産業振興に取り組んでいきたい」

―都市における産業振興のポイントは何でしょうか。

「集積と連携だ。企業の立地を増やすのはハードルが高いが、区内に来る人を増やすことはそこまで難しくない。人や大学・研究機関が集まり、情報が集まる場所にすれば、産業振興につながるだろう。板橋は地域内でのつながりが強いので得意といえる。生産をほかへ移しても、肝を板橋に残すようにして、集積、連携しイノベーションを生んで付加価値を高めていくことが重要だ」

産業技術支援センター開所

研究開発をバックアップ

東京都板橋区産業経済部
産業活性化推進室長
有馬　潤氏

リンテック株式会社　東証1部:7966
●本 社　〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
お問い合わせは、広報・IR室　TEL.(03)5248-7741 FAX.(03)5248-7754
http://www.lintec.co.jp/